

No.83 パートナーシップ

今回は、「パートナーシップ」というテーマで情報提供をします。

ダイアログのある暮らし、を研究し続ける中で、ダイアログがより身近な人たちと行える世界が広がるといいなと思うことが良くあります。その身近な人とは、パートナーであり、家族であり、仲間であり。ダイアログを暮らしに取り入れようとする人たちにとって、そんな大切な人たちとの関係性がより良いものになるといいな、といつも願っています。

そのより良い関係性こそが、今回のパートナーシップなのかもしれません。そのことについて今回もまた掘り下げながら、独断と偏見で自由に述べさせてもらいます。

【1】パートナーシップの意味 -

まずは恒例の、勝手に私が恒例と思っているだけなのかもしれませんが、パートナーシップという言葉の意味を調べてみます。

パートナーシップ【partnership】

1. 協力関係。共同。提携。
2. 英国や米国で、複数の個人または法人が共同で出資し、共同で事業を営む組織。日本の組合3に類似する事業体。出資者はパートナーと呼ばれ、組織を所有する。

参照：goo 国語辞典

意味としてはとてもシンプルですね。このシンプルな言葉から何を受け取るのか、パートナーシップの本質は何なのか、そんな問いを自分に投げかけながら、この先を書き進めていきたいと思います。

まず私の目に留まったのは、協力関係、という言葉です。協力関係にある、ということでは、考えると、共通の目的、もしくはそれぞれの目的がある、ということが考えられます。それが明確に共有されているかどうかはさておき、逆に言えば、目的なくして何を協力し合うのか、と考える自分がいるのです。

同じ目的、同じ方向性、など、複数の人間が協力し合い何かを行うのであれば、共通の行き先というものは必要不可欠だと思います。これはパートナーシップでもチームビルディングでも同じことだと考えています。その目的を当事者同士で掘り下げる、もしくは共通の感覚で共有されているなど、同じものを見ていることで、複数の人間が協力し合いながら目的を達成すること、それが協力関係という言葉から浮かんできました。

ただ、それぞれが持っている目的が合わさって協力し合う、という状況もあるでしょうから、共通の目的を持っているかどうかは一概には言えません。例えば、一人の人が掲げる達成したいことがあって、その人に認められたいとか、応援したいという目的で他の人が協力する、というパートナーシップも多く存在してそうです。

続いて、どんな関係性で協力し合っているのか、それが気になったのですが、お金や立場など、目に見える、もしくは目に見えないエネルギーの割合によって力関係が変わってくるのかもしれない。例えば、それが夫婦関係を表すのであれば、収入が多い方が力がある、そんなパートナーシップはこの世にたくさんありそうですね。

もしそんなパートナーシップを結んで過ごしていくのであれば、共通の基準が明確であり、それに対して事前に合意されていると尚良いと思います。仮に、お金をたくさん得た方が偉い、とか強い、という関係性であれば、お金を得た割合で力関係を定める、という基準を事前に共有し、それに対して合意してから関係性を結べば、ひとまず問題はなさそうですね。

【2】パートナーシップに望むもの -

それらのことを考えてみると、パートナーシップにおいて共通の方向性と価値観が共有できていることが大前提である、と考えます。例えば夫婦であるならば、お互いでどんな人生を歩んでいくのか、何を持ってしあわせとするのか、など。それらの答えとなることを共通の方向性としてきちんと理解し合っているかどうか、それがまず大切だと思います。

そして、その方向に向かって進んでいく途中途中の判断をするための、共通の価値観、それもふたりで掘り下げながら共有していく必要があると考えています。その価値観ですが、細

部の価値観は違っていてもいいのです。もともと別々の人間なので。その根本となる価値観が理解し合えていればいいと思います。

あと、パートナーとの関係性はフラットで、いち個人といち個人という対等な関係性で接することができるといいと思います。その中で役割を分け合って、一人ではできないこと成し得ていく、そんな関係性があれば世界はどんどん広がっていくでしょう。それなので、対等な関係性を保ち続けるためのお互いの決まりごとや価値基準が存在するといいと思います。

ただ、ひとりでない分、めんどくさいことも増えるでしょう。一人だと簡単にできていたことがなかなか進まなくてイライラするかもしれません。何をやるにしても、一人の時に比べて時間がかかることも費用がかかることも多いでしょうし。それもまた、パートナーシップを結ぶにおいて試されることのひとつなのかもしれません。

これらのことは、恋人や夫婦とのパートナーシップにしても、仕事におけるパートナーシップでも、同じことだと思います。複数の人が協力し合いながら何かを行う時の関係性、それがパートナーシップであって、大げさかもしれませんが、お互いが持ち寄った人生の役割を合わせて、共に何かを為していく関係性だと思います。

「No.78 主語「私たち」」でも同じことを書きましたが、ダイアログを重ねた向こうにあるもの、それが本当の意味で「私たち」を主語にできる関係性です。「私」という主語が隠れてしまってわかりにくい日本語でも、本当の意味で「私たち」という主語を使えるほどの関係性がパートナーシップだと私は考えています。

「私たち」を主語にできるかどうかは、向き合いながら話す時間を何度も重ねたからこそ行き着けるものだと思います。もしかしたらこの先に訪れる世界では、そんな時間を重ねなくても理解しあえるのかもしれませんが。どちらにしても、今の私たちにはダイアログを通じてお互いの想いを共有し合い、その機会を何度も何度も繰り返しながら関係性を高めていく以外にはないはずなので。

今まさに、私自身がパートナーとのダイアログを重ねながら実践しているところで、お互いで理解し合えた分だけ、「私たち」という主語で話せる部分が増えてきました。私は1度、離婚を経験していることもあって、その時のうまくいったこと、うまくいかなかったことをふり返って、今の関係性に活かそうという思いがあります。

お互いの想いを共有していく過程で、怖れや執着など、目を向けたくないものもたくさんあって、喜怒哀楽いろんな感情を味わいながらダイアログを重ねてきました。目を向けたくないものに目を向けることは、とても心苦しいですが、それでもお互いで向き合い目を向けた結果、怖れや執着が手放されて心が楽になる、ということは何度も経験してきました。

その結果のひとつが今の私の体型であり、怖れを手放すのと同時に体重が減ることを何度も繰り返してきました。もちろん、他の要因も重なったことではあります、それにしても、これは自分一人では成し得ることができなかつたものだと考えています。パートナーシップがあってこそ、本来の自分に戻っていくということが成し得るのだと今は考えています

【3】パートナーシップの先にある可能性 -

恋人や夫婦などのパートナーに関しての話ではあるのですが、人が人を好きになるということは、自分自身の好きな部分をたくさん投影してくれていることがひとつの条件だと考えています。それなので、もし自分を心から嫌いな人がいたら、なかなか人を好きになることは難しいかもしれません。

そんな自分の好きな部分を投影してくれる人の中で、自分の異性の親との間に自然と生まれてしまったコンプレックスを解消してくれる相手にどうやら惹かれる傾向があるようです。例えば、女性が人を好きになるとしたら、父親との間に生まれてしまったコンプレックスを解消するために、父親に似ているか、父親と真反対の人を選びやすいのです。

それらの要素を持った人に対して好意を抱き、そして恋人として共に過ごすようになった先に待っているのは、相手が投影してくれる自分自身の嫌いな部分を受け入れることです。それが受け入れられないうちは、その恋は終わりを迎えることとなります。そしてまた別の相手と恋に落ち、またその自分自身の嫌いな部分を受け入れながら自分自身のバランスを取り戻し、異性の親との間に生まれたコンプレックスを必要な分だけ解消していきます。

相手が投影する自分自身の嫌いな部分を受け入れ、異性の親とのコンプレックスを解消していく過程のその先にあるのが、パートナーと同じ方向を向いて進み始める、恋から愛へと変換していくタイミングだと考えています。

以前、大手町駅のホームに貼ってあった広告でこんな言葉を見つけました。

「LIKE は同質を好み、LOVE は異質を受け入れる。」

パートナーシップとはこの、LOVE の方の関係性だと私は考えます。異質のものを受け入れた関係性であり、すべてを受け入れ合い、共通の方向性に向かって役割分担する、そんな関係性ではないでしょうか。ただ、自分の恋人だから、自分の旦那さんだから、自分の奥さんだから、ということで我慢しながら一緒に居るのではなく、同質も異質も含めてお互いを受け入れ合い、大切にすべき価値観を大切にしながら同じ方向に向かって歩み続ける、そんな関係性ではないでしょうか。

そうやって自分自身の受け入れがたい部分を受け入れられればられるほど、世界を優しく感じるのことができるのかもしれませんが。受け入れることができた後はもう、目の前に投影された自分自身の嫌な部分を怖がる必要はないのです。

男性で生まれてくるのは女性を理解するためであり、女性で生まれてくるのは男性を理解するためである、ちょうどそんな言葉を目にする機会がありました。なんとなくですが、わかる気がします。

それぞれに役割があって、その役割を分け合いながら私たちの祖先は生きてきました。そこに欧米文化が入り、物質的な側面から、つまり男性性の論理だけで男女の不平等を訴え始めた経緯があるそうです。それに伴って私たちは忘れてしまったのかもしれませんが。私たちの祖先が育んできた、この日本という国に生まれたからこそそのパートナーシップを。

でも、その関係性は私たちの中にずっと残っています。なのでまた、私たちの祖先が育んできたこの国のパートナーシップを何らかのきっかけで思い出し、そんな関係性を結ぶことができるのかもしれませんが。

そんな宿願のような関係性ですが、それが輪廻でも、魂の記憶でも、遺伝子の記録でも、自分からすれば何でもいいです。積み重ねられた何かがあり、そこに今を生きている私たちが新しく加えることでまた、何らかの目的に近づいていくのだと思います。そう考えると、私たちはそんなパートナーシップの連鎖の中に生き続けている存在なのですね。

ダイアログのある暮らし、というテーマで研究を続けている先にあるのは、自分自身のパートナーシップ、です。目の前の大切なパートナーのすべてを受け入れることで、自分自身をより受け入れることができるのではないかと考えています。この世で1番身近な、鏡となっ

てくれる存在を受け入れて、自分自身で抑圧している自分を解き放つことができれば、また違った世界が見えてくるはずです。

それはもしかしたら、自分の中の男性性と女性性の統合なのかもしれません。

それがどんなことにつながるのかはわかりませんが、どちらにせよ、世の中に大きな変化が起きようとしています。そこに向けてまず、自分の中のバランスを整えることは今後を楽に生きていくために必要なことだと思うのです。パートナーがいる人はそのパートナーと、今はいないという人は、家族や親友など身近な存在とのダイアログを重ねて、まずは自分自身を解放することを意識してみてください。

そしてその先、本当に自分の中の男性性と女性性とが統合、もしくは結合されるような未来が待っているのなら、その時私たちは、今は想像もできなかった新しい何かを生み出しているのかもしれません。

「パートナーシップ」のまとめ

1. パートナーシップとは、協力関係にある、ということ。
2. 本当の意味で「私たち」という主語を使えるほどの関係性がパートナーシップ。
3. 目の前の大切なパートナーのすべてを受け入れることで、自分自身をより受け入れることができる。

今回は「No.83 パートナーシップ」についての情報提供をしました。次回は「No.84 ダイアログの3部構成」についての情報提供をします。

「ダイアログの場には勝とうとする人はいません。」この言葉がダイアログのすべてなのかもしれません。目的が探求や発見をするということであるだけで、あとは勝ち負けも、正解不正解もない、そんな特殊なやりとりです。

あなたがうまくいったな、と思うことでも、うまくいかなかった、ってことでも、実際にダイアログしてみた話をぜひ、誰かに話してみてください。ここに書いてあることと全く違う意見がある、という話でもいいです。それがまた私たちの探求や発見につながっていきますので。

- 研究テーマ - ダイアログのある暮らし

[ダイアログのススメ]

ダイアログの教科書 No.83 パートナーシップ

投稿日 2016/07/20 ・ 最終更新日 2016/08/27

発行 D-LABO <http://cobaken.net/index.php?labo>